

ミュージカル KANJIRO!

～本当は面白い二宮金次郎～

(上演時間：90分)

後援 IYC 記念全国協議会(国際協同組合年記念協同組合全国協議会)
JA全中(全国農業協同組合中央会)
(公社)大日本報徳社
(公財)報徳福運社・報徳博物館



銅像のことが知らなくても 思いっきり楽しめる金次郎の物語！

作・作詞・演出
鈴木聡より

二宮金次郎と聞いて思い浮かべるイメージはなんでしょう？「薪を背負って本を読む銅像！」そうですね。「苦勞した人！」そうですね。「真面目な人！」そうですね。あとは？
「???」。そうですね。おそらく多くの皆さんにとって二宮金次郎について知ってることは例の銅像のみ。いつごろ活躍した人か、だいたい、どんな活躍をした人かも知らない。私もそうでした。物書きのくせにお恥ずかしい。どうもあの銅像のせいなのか、真面目で堅物な人と思いついてしまっただけ、お笑いや遊びが大好きな自分とは無縁な人と勝手に決めつけていたのです。ところがこのたび、この作品を書くために金次郎さんのことを調べて驚いた。なんと面白い、魅力的な人でしょう。

二宮金次郎(1787年～1856年)
は小田原の生まれ。金次郎(金治郎)は通称で大人になってから尊徳と名乗りました。この人の業績をおおざっぱに一言で言うと、日本中の村おこし。大飢饉や天災が全国を襲った時代、なんと600もの村の再興に関わったのです。机上のプランを立てただけではありません。多くの地域に足を運んで土地や村の有り様を調べ、人々と絆を結び、それぞれの村に合った方法を考え抜いて、再興のために汗を流したのです。イメージとは違って自然体で豪快な人物だったようです。俳句をたしなむ風流なところもあれば、落ち込んで行方不明になるような人間味も



ある。天地・宇宙を見据えた広大な思想。科学・合理の精神に基づく技術論。さらに人情を深く理解し皆が気持ちよく働ける環境を整え……。もうね、この人が現代に生きていたら世界中から引つ張りだこのスーパー経営コンサルタントになっていたと思います。技術、農業、経営、教育、政治……。さまざまな分野に才を発揮した江戸時代のミケランジェロみたいな……。

そんな金次郎の人物と生き方を笑いと音楽たっぷりに描くのが「KANJIRO!」本当は面白い二宮金次郎です。「将来、どんな人になろうかな。どんな仕事をしようかな」と考える中の学生さんも、「村おこしや町おこしのことが気になるな。仕事のアイデアがないかなあ」という大人の皆さんも、人生や仕事のヒントがいっぱい見つかると思います。

芝居が始まる前は銅像のことが知らなくても、観終わったときには「金次郎、すげー!」となってること間違いなし。是非、是非、観に来てください。

鈴木聡(すずき さとし) 1959年東京都生まれ。早稲田大学在学中「劇団であとろ」50にて脚本・演出を担当。卒業後、博報堂でコピーライターとして活躍。1984年、劇団「サラリーマン新劇劇団(現ラッパ屋)」を旗揚げ。現在は演劇映画、テレビドラマ、新作落語まで幅広く執筆。第41回紀伊國屋演劇賞個人賞、第15回鶴屋南北戯曲賞を受賞。主な作品にNHK連続テレビ小説『あすか』『瞳』、グループ「ばる」『八百屋のお告げ』、青年座『をんな善哉』『フォーカード』、パルコ『恋と音楽』シリーズなど。わらび座作品では2015年度わらび劇場ミュージカル「為三さん!」を手がける。



宝くじの収益金は

学校、図書館等の教育施設の整備をはじめ、公園、社会福祉施設等の建設改修など、皆様の日常生活に役立つように使われています。